

学校評価アンケートの自己評価結果について

立春の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、12月に実施しました保護者アンケートに、多数ご協力いただきありがとうございました。今回も919名の保護者の方から回答をいただき、本校教育への皆様の関心と期待の高さを感じ、大変ありがたく思っております。また、同時期に児童・教員も同様のアンケートを行い学校評価最終自己評価として下表のようにまとめました。今回のアンケートの結果を踏まえ、来年度の学校経営計画の目標等を検討していきたいと考えております。今後とも学校教育に対するご理解・ご協力をよろしく願いたします。

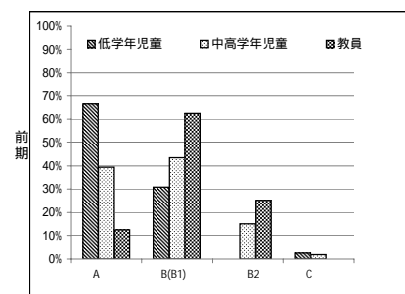
児童アンケート	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	総計
	回答数	151人	175人	150人	159人	157人	191人	983人
		低学年326人			中高学年657人			

	低学年(1,2年)	中高学年(3-6年)
A	そう思う	あてはまる
B1	B まあまあ	ややあてはまる
B2		あまりあてはまらない
C	そう思わない	まったくあてはまらない

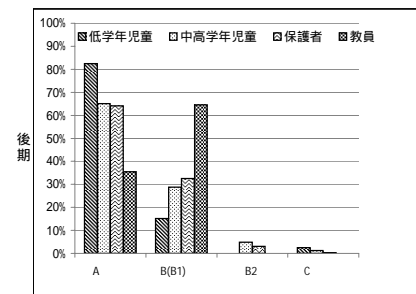
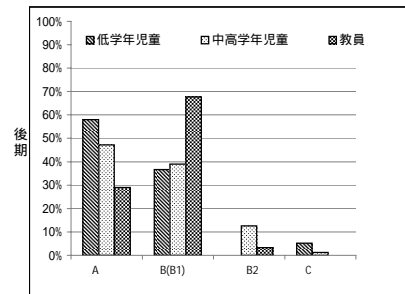
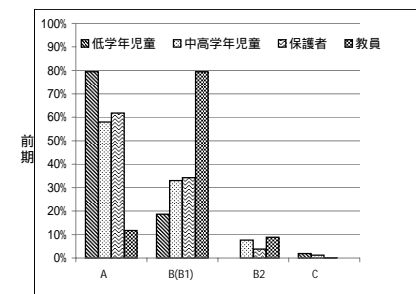
保護者アンケート	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	総計
	回答数	141人	169人	146人	150人	145人	168人	919人
	割合	91.0%	96.6%	96.1%	92.6%	91.2%	86.6%	92.2%

領域	学 力 の 向 上														
短期経営目標	基 礎 学 力 の 定 着 と 向 上														
	低学年児童		中高学年児童		教員		低学年児童		中高学年児童		保護者		教員		
	さんずうのじゅぎょうで、じぶんのかんがえをかいたり、はなしたりすることができた。		算数の授業で、自分の考えを書いたり話したりすることができた。		表現したいこと、伝えたいことがある算数の授業を実践することができた。		さんずうのべんぎょうをがんばって前より力がついた。		算数の学習をがんばって前より力がついた。		学校は、基礎学力を定着させる努力をしている。		算数的活動を通して児童が自分の考えを持ち、基礎・基本を習得させることができた。		
前期	A	203人	66.6%	253人	39.5%	4人	12.5%	242人	79.3%	372人	58.0%	535人	61.8%	4人	11.8%
	B1	94人	30.8%	279人	43.5%	20人	62.5%	57人	18.7%	212人	33.1%	297人	34.3%	27人	79.4%
	B2		97人	15.1%	8人	25.0%	6人	2.0%	8人	1.2%	1人	0.1%	0人	0.0%	
	C	8人	2.6%	12人	1.9%	0人	0.0%	6人	2.0%	8人	1.2%	1人	0.1%	0人	0.0%
後期	A	188人	58.0%	310人	47.2%	9人	29.0%	267人	82.4%	428人	65.1%	589人	64.1%	11人	35.5%
	B1	119人	36.7%	256人	39.0%	21人	67.7%	49人	15.1%	189人	28.8%	299人	32.5%	20人	64.5%
	B2		83人	12.6%	1人	3.2%	49人	15.1%	32人	4.9%	28人	3.0%	0人	0.0%	
	C	17人	5.2%	8人	1.2%	0人	0.0%	8人	2.5%	8人	1.2%	3人	0.3%	0人	0.0%
評価および今後の取り組み	前期と後期の数値をみると、児童や保護者、教員ともにA・B1の肯定的評価が向上している。この結果からみると、算数の学習や授業に対して前向きにがんばるという自覚が児童についてきており、基礎学力は確実に定着しているといえる。本年度の学校での研究の成果が少しずつ現れてきていると思われる。中高学年児童の「算数の授業で、自分の考えを書いたり、話したりすることができた。」では、A・B1の肯定的評価が上がり、B2・Cの否定的評価が下がり、全体的に向上している。低学年の数値では前期より後期が下がっているが、授業研究や授業観察などの授業をみると、目標は十分達成されると判断できる。前期でおこなったアンケートの意味がはっきりと理解できていなかったのではないかなと思われる。教員の授業づくりの意識も授業研究を通して高まってきたと考えたい。それは、中高学年児童の評価結果が向上しているのにも反映していると考えられる。来年度は、年度当初から計画的に実践を進めていきたい。また、保護者にも授業を通して学校が何をしているのか、どんな授業をしているのかを見てもらい、評価してもらえようしていきたい。														

基礎学力の向上



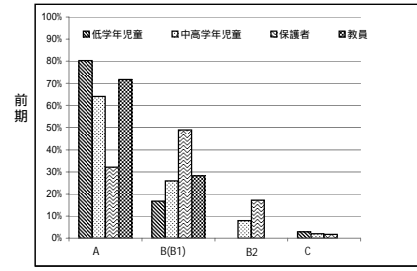
基礎学力の定着



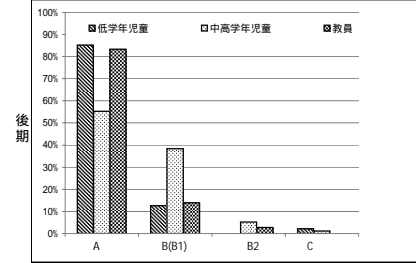
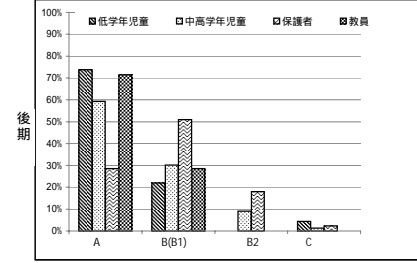
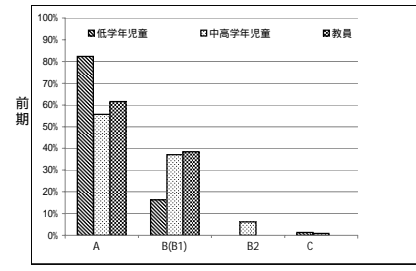
無回答、または、回答できない項目もあるため合計人数は項目によって異なります。
 人数の割合は、小数第2位以下を四捨五入して表しました。そのため合計が100%にならない場合があります。
 たんばば学級の保護者アンケートは、交流学年で集計しています。
 学年の合計が、8以上になっている項目があるのは、特別支援学級や通級指導教室を、1学年としているためです。

領域	豊かな人間性の育成														
短期経営目標	明るいあいさつ					きれいな学校									
	低学年児童		中高学年児童		保護者		教員		低学年児童		中高学年児童		教員		
	あいさつがよくなるようがんばった。		あいさつがよくなるよう努力した。		子どもたちは、よくあいさつをしている。		児童に気持ちのいいあいさつの働きかけを実施した。		そうじのしがたどおりに、そうじとあとかたづけができた。		そうじの仕方どおりに、そうじと後片付けができた。		掃除指導と掃除後の確認を行った。		
前期	A	245人 80.3%	410人 64.1%	279人 32.1%	28人 71.8%	251人 82.3%	357人 55.7%	24人 61.5%	50人 16.4%	238人 37.1%	15人 38.5%	40人 6.2%	0人 0.0%	0人 0.0%	
	B1	51人 16.7%	166人 25.9%	425人 49.0%	11人 28.2%	50人 16.4%	238人 37.1%	15人 38.5%							
	B2		51人 8.0%	149人 17.2%	0人 0.0%		40人 6.2%	0人 0.0%							
C	9人 3.0%	13人 2.0%	15人 1.7%	0人 0.0%	4人 1.3%	6人 0.9%	0人 0.0%								
後期	A	239人 73.8%	390人 59.4%	263人 28.6%	25人 71.4%	276人 85.2%	363人 55.3%	30人 83.3%	71人 21.9%	198人 30.1%	468人 50.9%	10人 28.6%	41人 12.7%	252人 38.4%	5人 13.9%
	B1	71人 21.9%	198人 30.1%	468人 50.9%	10人 28.6%	41人 12.7%	252人 38.4%	5人 13.9%							
	B2		60人 9.1%	166人 18.1%	0人 0.0%		34人 5.2%	1人 2.8%							
C	14人 4.3%	9人 1.4%	22人 2.4%	0人 0.0%	7人 2.2%	8人 1.2%	0人 0.0%								
評価および今後の取り組み	あいさつについて、児童、保護者、教職員ともに、おおむね意識的に取り組むことができていると思われる。本校とPTA、地域の共同の取り組みとして、継続的に進めている「ふれあいの日」を今後も定着させるとともに、あいさつだけでなく地域行事への積極的な参加なども働きかけていきたい。良好な関係を持ちながら、コミュニケーションを広げていくことを目的とした「ふれあいの日」の取り組みをさらに進めていきたい。また、教職員はもちろんのこと、保護者・地域に向けて、今よりもっと児童に対してあいさつを働きかけていけるように、お願いしていきたい。					きれいな学校にするために、教職員が児童とともに清掃活動にあたり、そうじの手順の指導やそうじ後の確認について重点的に行ってきた。そうじ時間のこれらの習慣は徐々に定着してきていると思われる。今後は掃除の質の向上と、集中して清掃活動ができるように、手だてを考え取り組んでいきたい。									

明るいあいさつ

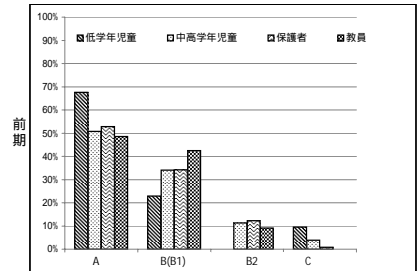


きれいな学校



領域	健康・体力づくり					まちぐるみ教育の推進							
短期経営目標	運動の習慣化					かかわり合い							
	低学年児童		中高学年児童		保護者		教員		保護者		教員		
	ぼうしをとおくに投げたり、ねらって投げたりするちからがついた。		ボールを遠くに投げたり、ねらって投げたりする力がついた。		子どもは、自分から進んで運動したり外で遊んだりしている。		「きらきらタイム」と外体育の5分間には、投力向上を目指した運動を取り入れた。		学校は、学校便り、学年便り等のプリントや、Webページ、安心ネットなどで学校の情報の発信に努めている。		学年便りを毎月発行し、学校のWebページの学年のページを予定通り(6回)更新した。		
前期	A	206人 67.5%	325人 50.8%	458人 52.8%	16人 48.5%	560人 64.6%	3学年 37.5%	70人 23.0%	218人 34.1%	296人 34.1%	14人 42.4%	284人 32.8%	4学年 50.0%
	B1		72人 11.3%	106人 12.2%	3人 9.1%	17人 2.0%	0学年 0.0%						
	B2		29人 9.5%	25人 3.9%	7人 0.8%	0人 0.0%	6人 0.7%	1学年 12.5%					
C	29人 9.5%	25人 3.9%	7人 0.8%	0人 0.0%	6人 0.7%	1学年 12.5%							
後期	A	214人 66.0%	352人 53.8%	458人 49.8%	16人 53.3%	558人 60.7%	6学年 75.0%	90人 27.8%	196人 30.0%	341人 37.1%	11人 36.7%	334人 36.3%	2学年 25.0%
	B1	90人 27.8%	90人 13.8%	111人 12.1%	3人 10.0%	23人 2.5%	0学年 0.0%						
	B2		20人 6.2%	16人 2.4%	9人 1.0%	0人 0.0%	4人 0.4%	0学年 0.0%					
C	20人 6.2%	16人 2.4%	9人 1.0%	0人 0.0%	4人 0.4%	0学年 0.0%							
評価および今後の取り組み	児童、保護者アンケートの回答では、どちらからも高い割合で肯定的評価を得ることができた。また、11月に行ったソフトボール投げの2回目の計測では、64.5%の児童が、5月に計測した自分の記録を上回っていた。この記録は、男子は全学年で、女子は、2,3,5年生で全国平均記録を上回った。今年度の取り組みでは、「きらきらタイム」と外体育の時間を使って投力向上を目指した。しかし、5月から始めた取り組みは外体育が、6,7月と9月は水泳、10月は運動会の練習で、ほとんど練習時間が確保できなかった。したがって来年度からは、時間と場所を確保するなど、計画的に児童の投力向上を目指した取り組みを実施したい。					前期に引き続き、後期も保護者から高い評価を得ている。学校便り、学年便り、Webページなども活用しながら定期的な情報発信をすることができた。今後もWebページなども活用しながら学校の教育活動への理解が図れるように、必要で有用な情報を発信していきたい。							

運動の習慣性



かかわり合い

